



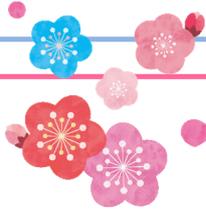
くすの木



会長あいさつ

ヘルパー2級 第2期生 前原文保

2歳になった孫にプラレール機関車をプレゼント。"しゅっぽしゅっぽ ぽ〜""トンネルだ〜トンネルだ"と声高にやったんですが、まったく食いつかない。ところが、数週間後、本物を体験した途端に、模型に夢になり始めました。・・・私たち大人世界でも、自分だけの判断で相手に一方的に押し付けたり指示する事がありますが、受け手の能力、都合もあります。社会生活、組織の中では難しい場面も出てきますが、理解には"思いやり"が一番の力かもしれないと新年早々感じた出来事でした。今年こそ、良い年でありますように。



愛生館代表あいさつ

代表 小林清彦



新型コロナウイルスが世界中に蔓延しており、多くの方々が日常生活に制限を受けております。それは、愛生館介護員養成研修を卒業された皆さんも例外ではないと思います。しかし、元々日常生活に制限を受けておられる「介護」を必要とする方々は、このコロナ禍で、どのような制限を受けて日常を過ごされているのか、私には想像も、ましてや直接的なサポートもできません。けれど、その方々の日常生活が少しでも改善されることを心から願っています。愛生館では、各施設や事業所、そして訪問先において、通常の感染症対策以外に「ICT」を活用した工夫を重ねています。ご興味がある方は、愛生館の広報誌「ひまわり 2020年夏号」をご覧ください。

しかし、これだけ新型コロナウイルスの災禍が大きく長く続くということは、これをなんとか凌いで、前の状態に戻すという選択はないと思います。つまり、新たな常識が生まれているステージです。そのステージでは、今までの常識を持ったままで判断・想像しても、活躍は難しいと思います。

愛生館介護員養成研修を卒業された方々には、是非、次のステージでも活躍していただきたいと私は想っています。過去の自分の考え方を壊すことは、非常に難しいと思いますが、新しいステージに行くためには、避けて通れない道です。「明るく」「楽しく」「仲間と語らいながら」そして「歯を食いしばり」「覚悟して」進んでください。そんな皆さんを愛生館は常に応援しています。愛生館でお役にたつことがあれば、いつでも来て下さい。



卒業生便り

①実践から入った27年の介護の世界

ヘルパー2級 第4期生 平松京子さん



碧南市養護老人ホームの宿直業務に'94年から月10回ほど就いて来ました。入職当時の養護はほとんどの人が自立で、杖などはめづらしいほどでした。義母の在宅介護を18年続ける間に、ホームもシルバーカー、車椅子などを使う人また、障害をもつ人、認知症の人が増えていきました。当然、自己流のケアでは通用しません。そんな状況の時にホームの主任支援員から「講座を受けてみたら」の声かけがあったのです。家事も心配でしたが、迷いはありませんでした。

講座は大変役に立ちました。義母の介護とホーム利用者のケアで「ああ、あの時はこうした方が・・・」「あれで良かったんだ」と思い出すことが多々ありました。介護保険制度ができる前に実践から入った世界ですが、私自身、後期高齢者となる前の貴重な勉強になりました。

今回、27年間の仕事を3月で区切りをつけることになり、この紙面をお借りしてお世話になった方々に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

②心穏やかに過ごせますように



初任者研修 第15期 尾畑みず恵さん

子育てが一段落して何か資格でもとろうかなと「社会勉強」くらいの気持ちで研修を受けようと思いましたが、そのときは介護の仕事に少し偏見もありました。

研修初日は最後まで続けられるかなと不安になりましたが、回を重ねることに楽しくなりました。そして認知症にとっても興味を持ち、介護の仕事をしてみたいと思いました。

自宅に近いグループホームで働き始めてまだ3ヶ月ですが、毎日バタバタしながらも仕事がいやだなと思ったことは一度もありません。研修で学んだから利用者様の拒否もストレスなく受け入れられる気がします。仕事をする上で私が心にもいつも留めているのは認知症ケアで学んだ「否定しない」ということです。そしてお互い心穏やかに過ごせるように努力していきたいと思えます。

③理想郷への第一歩



初任者研修 第15期 田代宗大さん



私の本職はエンジニアです。今まで培ってきた技術を活かして介護の分野に役立てられることはないかと代表の小林様に相談したところ「まず介護の現場を知った方が良いのでは」ということで初任者研修を紹介いただきました。研修を受けたことで外から見ている理解と実際の現場では全く違うことに気付かされました。介護の基本理念は「自立支援」と「尊厳の保持」であり「やってあげる、助けてあげる」ことが本人のためにならないこともあるのだと理解したときに、この世界に対する技術開発が進まない理由が少し見えた気がしました。この気づきを今後の仕事に役立てることが私の使命だと捉え、介護の分野に貢献していきたいと思えます。

コロナ禍の講義・演習の様子

体調チェック・検温・換気・消毒など感染症対策は万全で無事修了。第16期生19名



お礼のこぼ

今日は私たち修了生のためにこのような温かい式を開いてくださってありがとうございます。

この講義で私たちは幅広い知識、確かな技術、相手の立場を理解し思いやる気持ちの3つのHの必要性の基礎を学ぶことができました。

～中 略～

最後に、私たちの健康のために、3密にならない環境整備、医療物資の不足の中貴重な防護具を提供して下さったおかげで、今日まで安心して講義を受けることができました。常に体調を気遣って下さったり、毎回労いのお言葉をかけて下さったことも原動力になりました。

理事長はじめ、熱心なご指導いただきました先生方に心から感謝申し上げます。

令和2年11月29日 第16期生代表 沢井範子

事務局便り

修了生のみなさんいかがお過ごしでしょうか。今回の同窓会は会報のみの発行となりました。愛生館介護職員初任者研修は第16期生が修了し、2021年度も継続して開講を予定しています。通信課程の県への申請も受理され、6月からスタートします。通学課程の22日間よりも少し短い通学16日間+自宅学習で修了することができます。ご家族、知人の方で興味のある方はお問合せください。コロナ禍でも、愛生館介護職員初任者研修は感染対策を万全に行い、多くの方に受講していただいています。残念ながらお仕事が減り介護の資格を取得されて次のステップへと人生をスタートされる方、こんな時代だからこそ人との関わりを持ちたいと考えられる方、今家族の介護に力を注ぐ時だからと思われる方・・・そんな気持ちを持った方たちのお手伝いを私たちは続けていきたいと思えます。今年の春、桜が咲くころに矢作川の桜を眺めながらみなさんと語りあえる日を心待ちにしております。4月の「さくらまつり」の詳細が決定しましたら、ホームページまたはブログにてご案内いたします。こんな時期です。どうか皆様お身体を大切にいただければ幸いです・・・

追伸「愛生館ブログ」ご覧になってくださいね。



曾我千恵子・原田麗子・深谷陽子
Mail : kaigostudy@aiseikan.or.jp
Tel : 0566-41-0865